

【法人の概要】

代 表 者 名		理事長 原田 達		所 管 部（局）課	農政部 畜産課	
所 在 地		北杜市小淵沢町10060－3		電 話 番 号	0551－36－3945	
ホームページURL		http://www.nns.ne.jp/ass/baji		E-mail アドレス	baji@nns.ne.jp	
資本金（基本財産）		1,000	千円	設 立 年 月 日	昭和57年6月17日	
主 な 出 資 者 等	出資順位	出資者名等			出資額	出資比率
	1	山梨県			400 千円	40.0 %
	2	北杜市			400 千円	40.0 %
	3	山梨県馬術連盟			200 千円	20.0 %
	4				千円	0.0 %
	5				千円	0.0 %
	6				千円	0.0 %
	7				千円	0.0 %
	8				千円	0.0 %
	9				千円	0.0 %
	10				千円	0.0 %
	出資その他		団体（者）		千円	0.0 %
	その他				千円	0.0 %
					1,000 千円	
設 目 経 緯 概 況 等	（設立） 本法人は、「かいじ国体」（昭和61年10月）で整備した馬術競技用施設を管理運営し、これを有効活用して事業を実施する法人として、県・小淵沢町・馬術連盟の出捐により設立。 平成24年3月23日 公益財団法人に認定。 （目的） 馬事技術の普及奨励と優良乗用馬の育成供給等を行い、もって畜産の振興に寄与すること。 （経緯概況等） 国体終了後も県の馬事振興を図る拠点とし、各種大会の開催、研修会開催等により馬術普及に貢献している。更には、県内外から人を呼び込むことで、観光業等地域振興にも貢献している。					

【主要事業の概要】

主な事業名		内容	事業費(単位:千円)		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業1	馬事技術普及奨励事業	各種大会・合宿の受け入れ、施設の利用を通して馬事普及を図った。県有競技馬を中心とした調教技術の向上に努め選手強化の実績を挙げた。	59,865	58,630	61,076
事業2	優良乗用馬育成供給事業	競走馬からの転用馬の再調教を施し乗馬関係者に供給した。	3,017	2,955	3,078
事業3	その他法人の目的を達成するために必要な事業	地域と連携し馬の町まつり等の開催を支援し、地域スポーツ文化及び馬事振興発展に協力した。	1,994	1,953	2,034

【組織】

		年度 令和 4 年度					年度 令和 5 年度					年度 令和 6 年度							
		職 員 パ ー 員	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	そ の 他	職 員 パ ー 員	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	そ の 他	職 員 パ ー 員	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	そ の 他			
各年度体制																			
役員等	理事(常勤)	1			1		1			1		1			1				
	理事(非常勤)	9		3		6	8		3		5	9		3		6			
	監事(常勤)	0					0					0							
	監事(非常勤)	2				2	2				2	2				2			
	評議員	5				5	5				5	5				5			
	計	17	0	0	3	1	13	16	0	0	3	1	12	17	0	0	3	1	
職 員	管理職	0					0					0							
	一般職員	3	3				4	3	1			4	3	1					
	臨時職員	3				3	2				2	2				2			
	非常勤職員	0					0					0							
	計	6	3	0	0	3	6	3	1	0	0	2	6	3	1	0	0	2	
令和6年度 プロパー職員 の年齢構成 (令和7年4月1日現在)		年齢	～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61歳以上	合計			平均年齢			平均年収				
		男性					1		1	役員勤		※			(千円)				
		女性				1	1		2	役員勤					※				
		合計	0	0	0	1	2	0	3	職員勤		53			(千円)				

※個人の年齢、年収が容易に推定できるため不記載

※個人の年齢、年収が容易に推定できるため不記載

【経営の状況】

(単位:千円)

正味財産の状況	項 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減
		基本財産等運用益				0
		受取会費・受取寄付金				0
		受託事業収益	28,231	28,739	17,260	△ 11,479
		自主事業収益	55,038	47,515	50,565	3,050
		受取補助金等	23,973	23,973	24,353	380
		その他の収益				0
		経常収入 計	107,242	100,227	92,178	△ 8,049
		事業費	101,754	99,747	93,016	△ 6,731
		うち人件費	30,907	31,626	30,650	△ 976
		管理費	2,374	2,254	2,070	△ 184
		うち人件費	1,407	1,459	1,399	△ 60
		経常支出 計	104,128	102,001	95,086	△ 6,915
		当期経常増減額	3,114	△ 1,774	△ 2,908	△ 1,134
		経常外収入				0
		経常外支出	300	71	71	0
		当期経常外増減額	△ 300	△ 71	△ 71	0
		当期一般正味財産増減額	2,814	△ 1,845	△ 2,979	△ 1,134
		当期指定正味財産増減額	△ 23,973	△ 23,973	△ 13,353	10,620
		正味財産期末残高	536,338	510,520	494,188	△ 16,332

(単位:千円)

財務状況	項 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減
		流動資産	10,865	14,288	13,726	△ 562
		固定資産	535,308	506,857	489,460	△ 17,397
		資産 計	546,173	521,145	503,186	△ 17,959
		流動負債	7,930	8,297	5,684	△ 2,613
		うち短期借入金				0
		固定負債	1,905	2,328	3,314	986
		うち長期借入金				0
		負債 計	9,835	10,625	8,998	△ 1,627
		正味財産	536,338	510,520	494,188	△ 16,332
		うち基本財産への充当額	1,000	1,000	1,000	0
		うち特定資産への充当額	461,119	437,146	423,793	△ 13,353

(単位:千円)

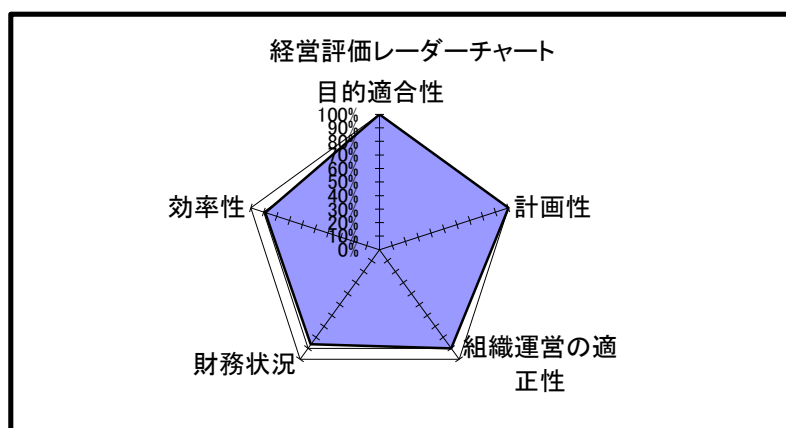
県の財政的関与の状況	項 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減
		負担金				0
		人件費補助金				0
		人件費以外の補助金				0
		運営費補助金	0	0	0	0
		事業費補助金				0
		補助金 計	0	0	0	0
		人件費委託金	6,041	6,107	6,656	549
		人件費以外の委託金	9,817	10,549	10,604	55
		委託金 計	15,858	16,656	17,260	604
		県支出金 計	15,858	16,656	17,260	604
		県の財政的関与の割合(%)	14.8	16.6	18.7	2.1
		県貸付金残高				0
		県債務負担実残高				0

【県の財政的関与の状況(令和5年度)】

項目	内容・目的・金額
負担金	
補助金 (運営費)	
補助金 (事業費)	
委託金	県有競技馬の能力を効果的に発揮させるための飼育管理業務に係る委託経費と、民間強化指定馬への飼育管理費・調教費を併せ 17,260千円
県債務負担 実残高	

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	3	10	10	100.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	3	10	10	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であることを問う視点	3	10	9	90.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	7	44	38	86.4%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	5	18	16	88.9%
合 計		21	92	83	90.2%



【警戒指標数】

目標達成度	
正味財産増減	
流動比率	
借入金依存率	
債務超過	
県の将来負担見込	
回収不能債権	
県の債務処理補助等	
公益認定基準抵触	

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	公益財団法人として設立目的に沿った事業を実施し、本県の馬事振興に貢献するとともに、地域の観光協会、商工会等による山梨県馬術競技場サポートクラブと連携し、大規模馬術大会の運営をサポートすることで、地域の活性化に大きな成果をあげている。
計画性	経営計画及び事業運営合理化計画に基づいた管理運営を行っている。
組織運営の適正性	組織の人員構成や業務内容のチェック、また、各種規程等の見直しによる業務改善を常に心掛けている。また、ホームページを活用し、活動内容や財務状況等も積極的に公開している。
財務状況	生安研受託試験がなかったため、昨年度と比較すると経常収益は減少したものの、大会参加頭数が増加したことや冬季に長期の合宿を受け入れたことから施設使用料収入は増加している。また、借入金はなく、安全な資金運用に努め、健全運用をしている。
効率性	大会や合宿の利用増加により施設の有効活用を図り、必要最小限の人員で計画した事業収入を確保できるよう効率的な業務推進に努めている。
総合的評価	大会参加頭数の増加により、メインの事業収入である競技会使用料収入は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復してきている。イベント等の開催で、地域振興に寄与しているなど公益性も高く、健全な経営状況であった。



対応策	新たな馬術大会や合宿、地域イベント等の誘致により、事業収益の確保に努めながら、光熱費や燃料費等の経費節減により公益財団法人としての健全経営を目指す。 また、大会が実施されない、12月から2月まで冬期間の収益性を確保するため、馬を用いた委託試験や合宿等の有効活用を関係機関と積極的に検討する。
-----	--

【法人担当部局の所見】: (法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	設立目的に沿った事業を実施し、本県の馬事振興に貢献するとともに、地域の観光協会、商工会等による山梨県馬術競技場サポートクラブと連携し、大規模馬術大会の運営をサポートすることで、地域の活性化に大きな成果をあげている。 目標達成度については、昨年度と比較し大会数、強化トレーニング参加団体数は減少したものの、大会参加頭数は増加している。引き続き誘致活動に積極的に取り組み大規模大会の誘致等により利用数を増やし、集客力の向上にむけ努力していく必要がある。
計画性	経営計画及び事業運営合理化計画に基づいた管理運営を行っていく必要がある。
組織運営の適正性	組織の人員構成や業務内容のチェック機能は概ね良好である。また、各種規程等の見直しによる業務改善を常に心掛けており、ホームページを活用して、活動内容や財務状況等も積極的に公開している。
財務状況	今年度は生安研受託試験がなかったため前年度よりも経常収益が減少したことや、物価高騰や高熱水料費の影響などから経常増減額は約290万円のマイナスとなったものの、借入金はなく、安全な資金運用など、全体的に見ると健全な経営と言える。
効率性	大会や合宿の積極的な誘致などにより、施設の有効活用を図り、必要最小限の人員で事業収入を確保できるよう効率的な業務の推進に努める必要がある。
総合的評価	目的に合った計画的な運営を行っている。今年度は生安研受託試験がなかったため前年度よりも経常収益が減少したため、当期経常増減額はマイナスとなったが、借入金もなく、正味財産期末残高はプラスであった。 今後も引き続き、新たな大規模大会の誘致と大会の継続的な開催に努めることで収益を増加させ自立的経営を目指していく必要がある。

【総合評価】: (経営検討委員会による総合評価)

総合評価 ラ ン ク	A 得 点 率 90.2 % 警 戒 指 標 数 0	A 得点率80%以上かつ警戒指標なし B 得点率70%以上80%未満または警戒指標が1 C 得点率60%以上70%未満または警戒指標が2 D 得点率60%未満または警戒指標が3以上
総合的所見	・令和5年度は、前年度と比較して開催大会数や強化トレーニング等参加団体は減少したものの、参加馬数に変更はなく、また大規模大会等の出場者が増加したことに伴い施設利用者数が増えた。これにより、職員1人当たり施設等利用人数が増加したため、効率性の評点が上昇した。 ・総合評価はA評価を維持しており、今後も経費削減を行うとともに、各関係機関との連携を強化し、新たな馬術大会、イベント、合宿等を積極的に誘致するなど、県内における馬事振興・普及に寄与することが期待される。	



【総合評価に対する今後の対応方針】

・令和6年度には、企業版ふるさと納税を財源に東京オリンピックで使用したオランダ産の白砂の敷設工事を実施したところである。これにより、参加人数や頭数の多い大規模な全国規模の大会を誘致するとともに、合宿の受け入れを推進し、公益目的事業である施設利用料収入の確保に努めていく。

・また、大会オフシーズン(冬期間)における、馬を用いた委託試験や合宿等の施設の有効活用により、収益性を高めるとともに、光熱費や燃料費等の経費削減に努めることにより、財務状況の安定に取り組んでいく。

・令和6年度には県主催の小淵沢エリア振興検討委員会が設置され、県馬術競技場は品格と安らぎを感じる「馬」のまちの主要施設に位置付けられたことから、北杜市や地域事業者との連携を密にし、小淵沢エリアの地域振興に積極的に努めていく。